

薬局実習受入準備のための富山大学と富山県薬剤師会との連携

○今村 理佐¹, 永野 康己²(¹富山大院薬,²富山県薬)

【目的】来年5月より11週間の薬局実務実習が開始される。富山大学薬学科生54名の実習は、富山県薬剤師会に所属する38薬局で予定している。しかしながら、実務実習モデル・コアカリキュラムの中には指導が難しい項目もあり、多くの指導薬剤師が不安を抱えている。また、日々の実習では、指導薬剤師による形成的評価も必須となる。そこで、今回、大学と県薬剤師会が連携をとり、認定実務実習薬剤師を対象とした研修会と、独自の薬局実務実習評価ツールの作成を試みた。

【方法】平成21年11月29日に、富山大学と富山県薬剤師会薬学教育推進委員会とで、「認定実務実習指導薬剤師(薬局)研修会」(研修会)を開催した。また、日本薬学会薬学教育改革大学人会議・実務実習指導システム作り委員会で示された「評価の手引き(案)」および「基盤をなす評価の詳細(案)」をもとに、薬局実務実習評価ツールを作成し、エクセルファイルにまとめた。【結果】研修会には、初年度受入予定薬局の薬剤師をはじめ80名の薬局勤務薬剤師が出席した。研修会では、日本薬剤師会が作成した、「薬学生実務実習指導の手引き2009年版」をもとに、到達目標の説明だけでなく、各薬局の状況に合わせて指導するための実習方法を具体的に提案した。また、関係資料を例示し、その取得方法も示した。一方、薬局実務実習評価ツールとしては、レポート課題・報告(記録)書・チェックシート・試験問題などを作成し、実習中日々の評価に何回も使用できるものとした。【考察】研修会は、指導薬剤師の抱える問題点のある程度軽減できたものと考えられた。さらに、実務実習では、大学と県薬剤師会・薬局との連携をより深め、薬局実務実習評価ツールを実務実習記録の一部として活用することにより、実習生と指導薬剤師の両者が成果を得ることができるよう努めていきたいと考えている。